

「第2回みどり技術ネットワーク全国会議」を開催します！

農林水産省は、みどりの食料システム戦略の実現に貢献する技術の社会実装を一層促進するため、「みどりの食料システム戦略技術カタログ」に掲載された技術をテーマとした、「第2回みどり技術ネットワーク全国会議」を開催します。みどり技術に関心のある方は、どなたでも参加いただけます。皆さまの参加をお待ちしております。

1.概要

みどりの食料システム戦略の実現に向けて、戦略で掲げた各目標の達成に貢献し、現場への普及が期待される技術について、「みどりの食料システム戦略技術カタログ」としてとりまとめています。

「第2回みどり技術ネットワーク全国会議」では、これらの技術の更なる普及、改良を目指し、カタログ掲載技術の紹介に加え、これらの技術の開発者や技術を実際に活用している農業者等とのパネルディスカッションを実施します。

※本会議は、昨年開催された「みどり技術ネットワーク地域会議（全国9ブロック）」を受けて実施するものです。

2.開催日時及び場所

日時：令和7年3月6日（木曜日）13時00分から16時10分まで

（会議は13時30分から15時40分まで、ポスター展示は13時00分から16時10分まで）

場所：農林水産省6階 共用第2会議室（ドアNo.本667）

所在地：東京都千代田区霞が関1-2-1

開催形式：会場及びオンライン併用（Microsoft Teams）

3.プログラム PDF版はこちら(PDF：729KB) → <https://www.maff.go.jp/j/press/kanbo/kihyo03/attach/pdf/250207-1.pdf>

(1) 開会挨拶 農林水産省 大臣官房技術総括審議官 兼 農林水産技術会議事務局長 堺田 輝也

(2) 趣旨説明 農林水産省 大臣官房政策課 技術政策室課長補佐 小花和 宏之

(3) パネルディスカッション

モデレーター：農研機構 本部 みどり戦略・スマート農業管理役 豊島 真吾 氏

パネリスト：下記参照

・化学肥料減が期待される衛星データと可変施肥田植機の利活用

ヤンマーアグリ株式会社 開発統括部先行開発部 小島 右資 氏

夷隅農業事務所 改良普及課 普及指導員 板倉 智貴 氏

・土づくりと減肥のための緑肥利用

農研機構 中日本農業研究センター 温暖地野菜研究領域・グループ長 唐澤 敏彦 氏

伊豆陽なたビオファーム 代表 米倉 賢一 氏

・輸入花粉に依存しない国産花粉の安定供給システム

鳥取大学 農学部 准教授 竹村 圭弘 氏

埼玉県さいたま農林振興センター 技術普及担当（南部） 主任 柴崎 茜 氏

・混合有機質肥料を用いた土壌還元消毒

片倉コープアグリ株式会社 肥料本部 アグリソリューション推進部 技術推進課 土井 研一 氏

福岡八女農業協同組合 園芸指導課 係長 中瀬 春幸 氏

(4) 全体質疑応答

(5) 閉会挨拶 農林水産省 大臣官房政策課 技術政策室長 齊賀 大昌

(6) ポスターセッション

全国9ブロックで活用されているみどり技術の紹介

4.申込方法

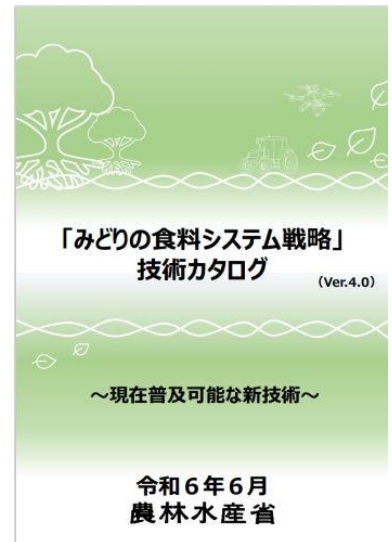
【申込期限：令和7年3月4日（火曜日）17時】

※会場参加は先着100名 お申込みは下記アドレスの申込フォームから（外部リンク）

https://forms.office.com/Pages/ResponsePage.aspx?id=_6DkBnJJI0qvMEVxNh0TRMPZcims30VKhYVmH9XSAXIUNzY4VTJWVFZCRkJKSIVVFQ1N082OFIaNi4u

※ 詳細は下記アドレスから農林水産省のホームページをご確認ください。

<https://www.maff.go.jp/j/press/kanbo/kihyo03/250207.html>



埼玉県三郷市で、昨年新たにいちご農園を開園した、「TN farm」の石井信行さんをご紹介します。

石井さんは、玉川大学農学部を平成27年に卒業後、三郷市で祖父の代から続く実家の農家「たびや（屋号）」に就農しました。

元々、実家では主に「こまつな」を栽培していましたが、就農した頃はスーパーに「地場産野菜コーナー」が設置され始めた時期で、石井さんもいろいろな野菜を作り始めたところ、他の生産者と競争になり価格が下がってきたため、「他の生産者と差別化を図るには、違う作物でないと」と考え、新たにいちご栽培を始めました。



「TN farm」の石井 信行さん

いちご栽培に関する知識はありませんでしたが、独学で土耕栽培を2年間勉強し、3年目に高設の養液土耕栽培を始めました。栽培を始めてからも、分からないことや問題があると、春日部農林振興センターやJAさいかつ、知り合いの農家に相談し、解決してきたそうです。

いちごハウスは、「こまつな」の栽培に使用しているハウス10棟のうちの2棟（10.6a）に養液土耕栽培のユニットを入れ、来園者に配慮し車椅子やベビーカーも入れるように広い通路を確保するなど改修し、令和6年1月にいちご狩り農園を開園しました。また、併せて屋号も「たびや」から「TN farm」（「たびや」、New、Naturalの頭文字から命名）に一新しました。取扱品種は、令和6年は「よつぼし」、「章姫」、「紅ほっぺ」の3品種で、今年は「あまりん」、「スターナイト」、「ほしうらら」、「ベリーポップすず」の4品種を加え、バラエティーに富んだ品種を揃え入園者を楽しませています。



もうすぐ出荷（2025. 1. 21 撮影）

石井さんは、「いちご栽培は温度管理が難しいが、温度や湿度、積算温度などがスマートフォンで確認できるスマート農業技術を導入することで、美味しいいちごの追求に労力をかけることが出来ている。」と言います。

今年のいちご狩りは、生育遅れから2月中旬にオープン予定ですが、いちごの販売は、既に市内にあるJAさいかつの直売所「べじ太くん」や吉川市のイオンタウン、越谷市のレイクタウンなどで行っています。

今後の目標は、「3月に法人化を予定しているが、まずは良いものを作り続けて消費者に喜んでもらいたい。次に、出荷できない規格外品を加工品にするなど6次化にも取り組みたい。その上で、規模を拡大したい。」とのこと。

最後に、新規作物の導入を目指す人へのアドバイスをお願いしたところ、「種まきから収穫までの流れを1回やってみないと、ありがたさも分からないし営農の課題も見えてこないの、『とりあえず種を蒔け！』。」といただきました。

なお、三郷市では、単年栽培（採りつきり栽培）で育てたアスパラガス「三郷ジュシーあすばら」の特産化を進めており、石井さんも地域ブランドの確立に協力しています。

編集：関東農政局 埼玉県拠点

〒330-9722 さいたま市中央区新都心2-1 さいたま新都心合同庁舎2号館

TEL 048-740-5835

＜関東農政局HP＞ <http://www.maff.go.jp/kanto/>